

「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立日吉台小学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「理科」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

(1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B, 理科
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

(2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A(知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語B(活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A(知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	B
算数B(活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	B
理科(知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

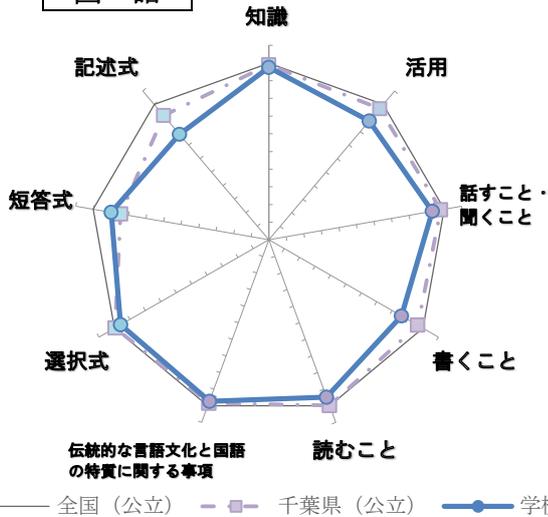
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



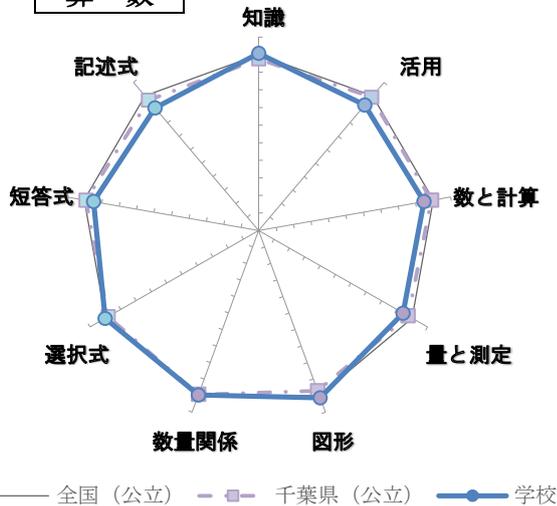
【特徴と現状】

- 全体的には、全国平均とほぼ同じ正答率ですが、国語B（活用）はやや正答率が下回っています。
- 「記述式」の形式において正答率が下がっています。
- 文の中で漢字を正しく使う問題は概ねできています。しかし、一部の問題で正答率が低いものがありました。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べ、考えをまとめることに課題があります。
- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くことに課題があります。

【改善方策等】

- 漢字の読み書きについては、繰り返し練習するだけでなく、文脈の中での使い分けに着目できるように努めます。また、分からない語彙は国語辞典で調べるように指導していきます。
- 「話すこと・聞くこと」については、聞き手に自分の意図が伝わる話し方を指導します。また、聞き手は話し手の意図を理解し、自分の考えをもてるような指導を心掛けていきます。
- 「書くこと」については、今後とも作文指導を充実させていきます。具体的には、文章から必要な情報を要約し、それを基に自分の考えをまとめることなどの指導をしていきます。

算数



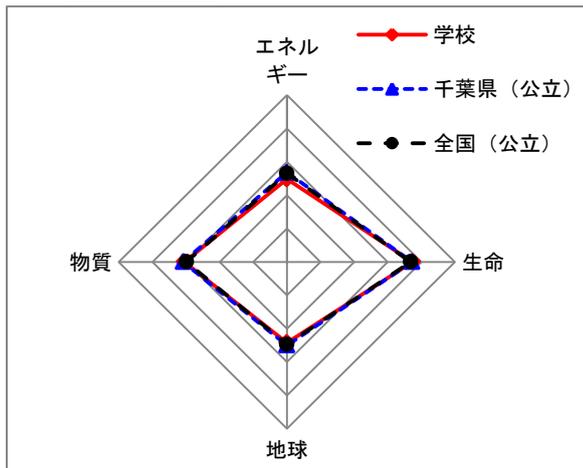
【特徴と現状】

- 全体的には、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 「選択式」については全国平均をやや上回っています。一方で、「短答式」「記述式」において正答率が下がっています。
- 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題文を選ぶ問いの正答率が低く、小数の除法の意味について理解が不十分であるという課題があります。
- メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題の正答率が全国平均を下回っています。

【改善方策等】

- 基本的な計算問題などについては、学習内容が確実に身に付くように、ドリル学習などを今後とも継続していきます。
- 文章題から整数、小数及び分数の計算式を立てる過程において、図や数直線などを利用して問題解決ができるように指導を継続していきます。
- グラフの読み取りについては、まだ不慣れな面が見られるので、折れ線グラフや帯グラフなどの様々なグラフの特徴の違いを復習し、複数の観点を正確に読み取れるように指導していきます。

理科



【特徴と現状】

- 全体的には、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 「物質」「生命」「地球」の正答率は、全国平均とほぼ同じでした。一方で、「エネルギー」の正答率は全国平均をやや下回りました。
- 流れる水のはたらきの性質を、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題の正答率は全国平均を下回っています。
- 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して結論を導き出して記述する問題の正答率が全国平均を下回っています。

【改善方策等】

- 今後も児童が科学的事象に興味・関心をもち、進んで観察や実験などの活動に取り組めるように努めていきます。
- 観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるように指導していきます。
- 問題解決の様々な場面で自分の考えを表現したり、他者の考えを聞き、それを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりするなどの話し合いを重視した学習活動に取り組んでいきます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析

- 「将来の夢や目標を持っているか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っていました。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思っているか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っていました。
- 「理科の勉強が好き」「理科の授業で学習したことは、普段の生活の中で活用できるか」「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っていました。また、そのように回答した児童は、理科の問題の正答率が高いことも分かりました。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っていました。

3 まとめ

各教科ともに学力を向上させていけるように努めてまいります。学校においては、基礎的・基本的な学習内容が確実に身に付くように指導をしていきます。また、各教科共に「活用」に関する正答率がやや低かったことから、基礎的・基本的な事柄を基にして答えを導き出したり、考えをまとめたりする活動が充実するように尽力いたします。

正答率が高い児童は、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝たり、起きたりしている」「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答している傾向があります。ご家庭におかれましては、規則正しい生活習慣や学習習慣が身に付くようにご支援・ご協力をお願いいたします。